

請 願 文 書 表 (平成28年3月25日定例会提出)

請願第15号

新斎苑建設計画に反対する請願書 (市民環境委員会付託)

平成28年3月4日受理

請 願 者 ●●●●●●●●●●●●●●●●
竹 中 正 彦 外5名
紹 介 議 員 今 西 正 延 井 上 昌 弘

奈良市は、現火葬場の移転計画を発表しました。

私たちは、新斎苑の移転建設について奈良市のどこかで建設する必要性はあると思います。しかし、鹿野園町隣接地の山林は土砂災害警戒地区に指定されています。その八阪神社の真東に隣接する候補地の山林は、岩井川かんがい用水を山裾より引いている水路が何度も土砂崩れで塞がれ、川に水が流れず、農家にとっては死活問題となった経緯があります。このような地に新斎苑が建設されれば、地下水の流れ方等自然環境の変化による影響などから、土砂災害警戒区域（地すべり）としてそのリスクを長年にわたり背負うことになりかねません。また、計画地の南西側は土砂流警戒区域となっており、町内住宅地に土砂流木などが流れ込む危険度が高くなります。

県が指定する土砂災害警戒区域に道路と橋梁を建設し、さらに建設場所（横井町山林）は大和青垣国定公園内であることから、財政難の折に、法律や規制をクリアするために多額の血税をつぎ込む計画です。

奈良市行政が新斎苑建設候補地として検討されたのは、24カ所もあったことが判明しました。一方仲川市長が交渉されたのは、わずか2カ所のみです。これで総合的な見識をもって最善の検討を行ったと言えるでしょうか。計画地に隣接する住民として、災害の危険と隣り合わせで生活をしなければなりません。

市は市民の安全・安心のまちづくりをするのが最大の責務です。市の責任でこの住民不安を払拭しない限り、鹿野園町隣接地への新斎苑建設計画の白紙撤回を求めます。